



現在進めている 重点事業について

高橋 市が進めている主な事業は、
市長 留萌市ではいま急いで整備しなければならぬ問題がたくさんあります。

まず一般廃棄物処理施設の建設です。現在、藤山に資源のリサイクルを考えた処理施設の建設をすすめております。リサイクルのためには分別収集が必要ですので、いままで進めてきたモデル地区を更に全市に広げて平成10年の供用開始に備えなければなりませんので市民のご協力をお願いします。

次に市立総合病院ですが、建物が古くて、せまい、駐車場も小さいなどご不便をかけておりますが、特にこれからの高齢化時代に備え、保健、医療福祉には広いスペースで対応できるものでなくてはなりません。

特に231号線の拡幅に伴って、病院の移転改築は待ったなしのところに来ています。

第三に、大型店の進出に伴って商店街の再開発を急がなければなりません。現在、十字街、開運町について、地区の皆さんと協力しながら計画を検討しています。留萌市の顔でもある商店街の振興

は大事な問題だと思っています。四つ目には、フェリー就航問題です。昨年十一月期成会が設立され、道北地域59市町村の関係者から全面的に大賛成をいただいたおり、留萌市の将来を左右するものだけに実現に努力していきたい。

第4次総合計画のキーワードは「交流拠点都市」です。長距離フェリーによる人・物を運ぶ道北唯一の港にしたいと思っています。今、船場町もそのために必要な施設、さまざまな人々が交流する拠点にしたい。港とこれらの施設を商店街の発展とどう結び付けるかも重要な課題です。

柳沢 さきほどのリサイクルの関係で7種プラスワンについては早い段階での浸透が必要ですね。小学校のPTAのお母さん方もいろいろ勉強しています。

市長 「混ぜればごみ、分ければ資源」という言葉がありますが、分別の7種プラスワンは是非協力頂きたいと思っています。今までモデル地区でやってきている方々の工夫など参考にしていきたいかなければなりません。

モデル地区では積極的に取り組んでいただき感謝しています。

野口 白老町ではごみを燃料としているが、

市長 焼却はコスト高となるので、留萌市ではごみの再利用方式を考えています。

時代の変化と 情報開示について

高橋 留萌を自立の10年と位置付けて第4次総合計画はあまり時期をくずさないで進めて欲しい。また財源のこともあり、優先順位を考えずすめるべきだと思います。市民に対しての情報開示も必要と考えています。

鉢呂 市民に対して情報をオープンにしてほしい。知らないことがいっぱいあり、変に誤解している。「こういうものができるところなるんだ」ということが必要。知らないで批判を言うことも多い。

市長 高橋さんの話のように、地方分権や行革など、国や時代が大きく変わってきています。魅力的な住み良いまちにするために市民と行政が一緒になって考えていかなければなりません。今回のごみ処理などは行政と市民の力が試されている問題だと思っています。また財政事情からいっても市民要望に全て答えるのは難しい。優先順位をつけてみんな考えていく、これが必要なことではないでしょうか。

シティホテルについては、旅館に影響があるという意見があるがそれは違うと思います。客層が違います。

市長 総合計画では、「交流拠点都市」としているが確かにホテルは問題です。今後の市の発展方向を考えるときちっとした受入れ体制を整備していくことが必要です。

高齢化社会とボランティア
市長 もうひとつ、重要なことは高齢者対策です。留萌で65歳以上の方は15%ぐらいですが、あと10年位で4人に1人は高齢者という状態になります。市では特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ショートステイなどの充実をすすめています。最近では自宅で暮らせるための在宅介護支援センター、訪問看護ステーションを設置しました。また今年

は東雲町に老人保健施設がオープンしますが今後もお年寄りの生活を支えるため努力して参ります。ただ、これからのお年寄りの福祉は施設だけでは解決しません。ボランティアのしくみが大きなテーマになってきます。老人の方が一人で亡くなって何日もわからなかったというような状態は起こして



また、そのためにも情報公開制度の整備は進めなければならぬと思っています。

高橋 社会の情勢はこの2、3年で急速に変わってきており、いままでは行政が壁になってきた面があったが、今は規制緩和が進んで壁がなくなってきたり、市民側はこのような役所を望んでいる。

これからは国民負担などは応分に負担しなければと痛切に感じています。

市長 税金は誰でも少ない方がいいでしょうがこの社会を維持するためには一定の負担は必要です。同じようにまちも市民皆さんの協力がなくては不可能です。

高橋 正直言って市民自体、あげせん、すえせん行政がやってくればという面もあった。今後はそのあたりを青年会議所も考えていかなければならない。

市長 青年会議所の皆さんも若い感覚で考え、具体的なものに取組んでいくことを期待しています。タブーをもうけないで頑張ってください。

意見の対立はあつて当然です。ただし、論理の対立であつてほしいと思う。

これからの留萌市

高橋 最近では社会情勢の急激な変化で先が読めないということがある。

市長 そのことは、現在市が取り組んでいる長期計画の作成の際も悩みの種となっています。

しかし、基本的なことはそう変わらないのではないかと気がします。例えば、農業も工夫次第ではまだ可能性が高い。食糧需要は幅が広いものですから、留萌が現在のように有数の数の子の加工基地になった先人の熱意と努力を忘れない限り、それほど悲観することはないと思います。

ただ商業の問題については、大店法の改正の影響がどこまで進むか読み切れない部分があります。行政も各商店街の皆さんと協力しながら努力して行きたいと思っています。

高橋 たとえば、今まではとなり同士だとけんかをしていたが最近では協力してやることが多い。商店街も一國一城の主の考え方が抜けない。これからは協力しあうという努力が必要だと思います。

インフラ整備は行政が担当する面が多いがまちの活性化のためにも頑張してほしい。

インフラ整備は行政が担当する面が多いがまちの活性化のためにも頑張してほしい。